

平成 28 年度 事業報告書

(第 2 期中期計画・第 1 事業年度)

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日



地方独立行政法人加古川市民病院機構

目 次

I 機構の概要（平成 29 年 3 月 31 日現在）

1 名 称	1
2 所在地	1
3 法人の設立年月日	1
4 設立団体	1
5 病院の名称及び所在地	1
6 資本金の額	1
7 役員	1
8 職員数	1
9 組織	2
10 法人の基本的な目標等	3
11 法人が運営する病院の概要	3

II 平成 28 年度における業務実績報告

1 総 括	5
2 年度計画に係る実績(大項目別)	7
(1)住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	7
(2) 業務運営の改善及び効率化に関する事項	9
(3) 財務内容の改善に関する事項	10
(4) その他業務運営に関する重要事項	11

この地方独立行政法人は、救急医療及び高度医療をはじめとした安全で良質な医療を提供するとともに、地域の医療機関及び加古川市と連携して、住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。



法人は、目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 医療を提供すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 医療に従事する者に対する研修を行うこと。
- (4) 予防医療を提供すること。
- (5) 災害時における医療救護を行うこと。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。



I 機構の概要 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

1 名称

地方独立行政法人加古川市民病院機構

2 所在地

兵庫県加古川市加古川町本町 4 3 9 番地

3 法人の設立年月日

平成 23 年 4 月 1 日

4 設立団体

加古川市

5 病院の名称及び所在地

名称	所在地
加古川中央市民病院	加古川市加古川町本町439番地

6 資本金の額

1, 3 5 7, 2 3 9, 4 1 6 円

7 役員

役員名	区分	氏名
理事長	常勤	大西 祥男
副理事長	常勤	大保 英文
理事	常勤	房 正規
理事	常勤	金田 邦彦
理事	常勤	中森 えり
理事	非常勤	大谷 博快
監事	非常勤	久保 一人
監事	非常勤	松田 稔

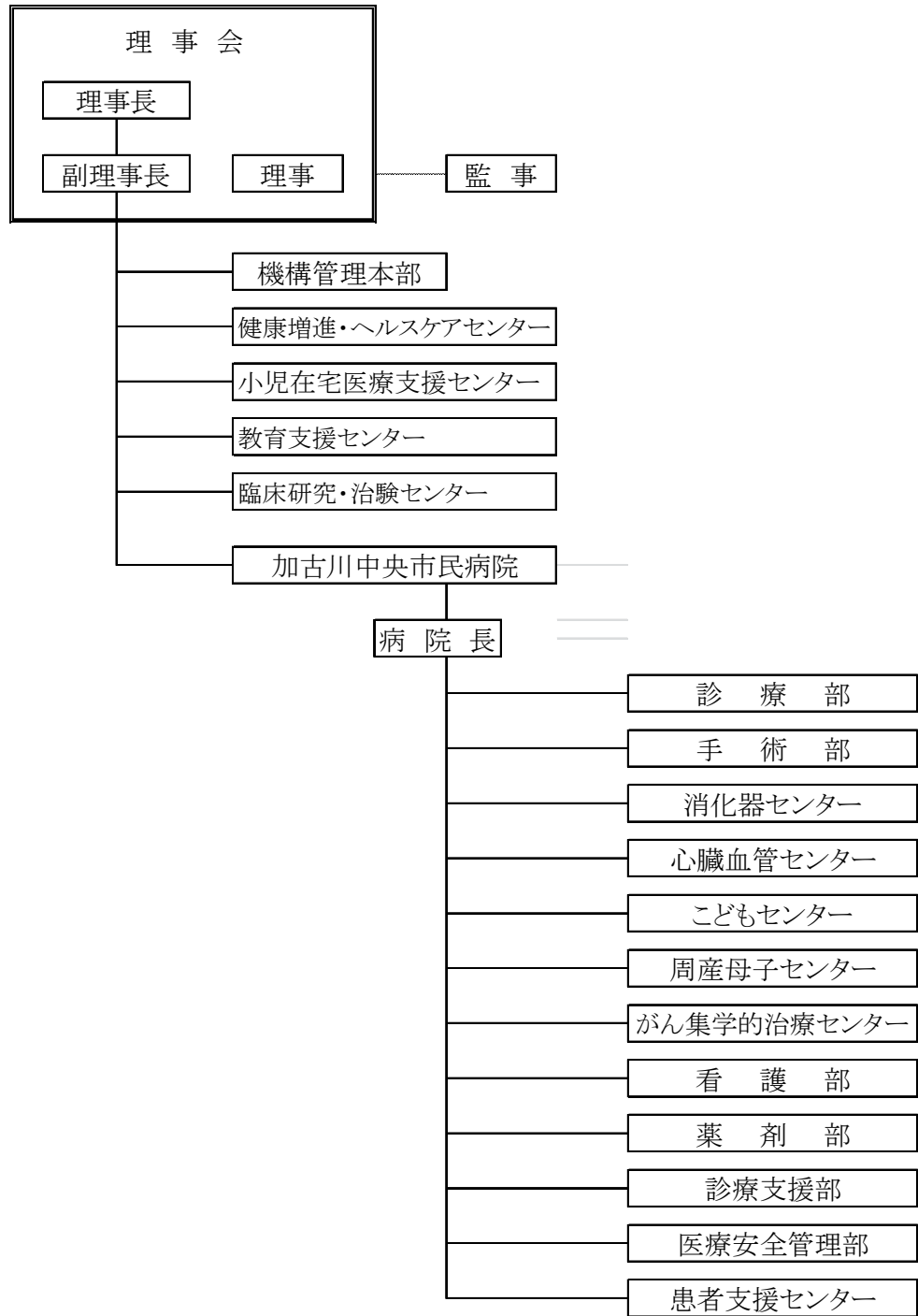
新任 平成 28 年 4 月 1 日

8 職員数 (平成 28 年 4 月 1 日現在 正規)

職種	現員
医師 ※	1 7 1 人
看護師	6 6 9 人
医療技術職	1 6 7 人
事務職	6 7 人
合計	1, 0 7 4 人

※初期臨床研修医(嘱託)を含む。

9 組織



10 法人の基本的な目標等

(1) 第2期中期計画 前文

本中期計画では、市民病院として果たすべき役割や機能を明確にするとともに、地域の医療機関との連携のもとに医療水準の更なる向上を図りながら、安全で質の高い医療の提供を通して、地域に貢献できる存在感のある病院づくりを進めていく。

特に、新たに開院する加古川中央市民病院の運営及び経営基盤を早期に確立させるため、全職員が一丸となって名実ともに信頼される市民病院を目指し、法人の理念や基本方針のもと、その使命の達成に向けて全力で取り組んでいく。

少子高齢社会が進展し、より多様な医療需要への対応が求められる中で、加古川中央市民病院はその特徴ある医療提供機能を遺憾なく発揮し、生命の誕生から、成長期、青年期そして壮年期、高齢期の疾患に至るまで、人の一生における全てのステージに関わる急性期疾患を幅広くかつ専門的にサポートできる全人的医療を実現する。

(2) 理念

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます

(3) 基本方針

安全で質の高い医療を提供します

5大センターを中心に高度専門医療を実践します

救急医療と災害医療の充実に努めます

患者と協働するチーム医療を推進します

地域を守る医療・保健・介護・福祉との連携を強化します

優れた医療人を育成します

持続可能な経営基盤を確立します

(4) 平成28年度 重点行動方針

新病院への安全な移転

スムーズな立ち上げ

～All for the Patient, All for the Staff～

11 法人が運営する病院の概要

(1) 開設年月日 平成28年7月1日

(2) 許可病床数 一般600床

(3) 稼働病床数 600床

(4) 標榜科目（医療法）

内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、腫瘍・血液内科、リウマ

チ科、腎臓内科、神経内科、小児科、外科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、精神神経科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科

(5) 診療センター

消化器センター、心臓血管センター、こどもセンター、周産母子センター、がん集学的治療センター

(6) 病棟配置

病棟	許可病床数	配置内容
10階東	47	総合内科、泌尿器科、腎臓内科、救急科、糖尿病・代謝内科
10階西	46	眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、神経内科、皮膚科
9階東	47	腫瘍・血液内科、リウマチ・膠原病内科、婦人科、放射線科
9階西	45	呼吸器内科、呼吸器外科、歯科口腔外科
8階東	48	消化器外科、消化器内科
8階西	45	消化器内科
7階東	45	循環器内科、心臓血管外科、形成外科
7階西	45	循環器内科
6階東	43	整形外科
5階（小児）	56	小児科、小児外科
5階（産科）	48	産婦人科
5階（NICU）	15	新生児集中治療室
5階（GCU）	30	新生児治療回復室
5階（MFICU）	6	母体胎児集中治療室
4階（ICU①）	12	集中治療室
4階（ICU②）	14	集中治療室
4階（HCU）	8	ハイケアユニット
計	600	

II 平成 28 年度における業務実績報告

1 総括

平成 28 年度は、第 2 期中期計画の初年度として新たな使命に取り組むとともに、法人設立以来の重要事項である新病院の開院という大規模プロジェクトを推進し、東播磨地域における高度・専門医療や救急、急性期医療提供体制を大きく推進させた。

7 月 1 日に開院した加古川中央市民病院（以下「中央市民病院」と表記。）の運営面では、様々な運用課題に全職員がそれぞれの持ち場で取り組んだ結果、外来診療及び入院治療などの医療サービスでは、早い段階から高い稼働を確保することができ、経営指標のほとんどにおいて、目標値を達成することができた。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
医業収益 (百万円)	15,805	17,676	111.8
経常収支比率 (%)	95.1	103.3	108.6
医業収支比率 (%)	89.9	99.1	110.2
入院診療単価 (円/人・日)	65,000	67,986	104.6
外来診療単価 (円/人・日)	13,000	14,547	111.9
1 日あたり入院患者数 (人)	459	506	110.2
1 日あたり外来患者数 (人)	1,360	1,305	96.0
病床利用率 (%)	76.5	84.3	110.2

組織運営では、中央市民病院開設に合わせて、両病院の組織統合を図るとともに、理事長・院長から法人役員及び病院幹部職員への権限委譲を積極的に進め、分任体制を整え、執行部会議や経営企画会議等の会議運営体制の見直しを行った。また、理事会や運営協議会を定期的に開催し、迅速な課題処理と職員の経営参画を促進した。

人材確保と育成に関しては、新設科の医師や初期臨床研修医、専攻医を重点的に確保するとともに病床稼働状況に対応できるよう看護師の大幅な補強を行い、教育支援センターを中心に医療人の育成に注力した。

職 種	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1
医 師 職	148 人	171 人	190 人
看 護 職	613 人	669 人	681 人
医療技術職	156 人	167 人	167 人
事 務 職	52 人	67 人	66 人
計	969 人	1,074 人	1,104 人

サービス面においては、救急医療や高度急性期及び急性期機能を発揮することで圏域における地域医療構想に基づく適切な機能分化を推進するとともに、5つの診療センターを中心に最

新の医療技術の導入などに取り組み質の高い医療提供体制を整備した。

また、外来における総合案内機能を整備するとともに、携帯端末等による外来待ち時間の案内や駐車場の混雑緩和、シャトルバスの運行など業務改善を進め、サービスの向上を図った。

平成 28 年度の事業決算収支は、病院の移転にともなう一時的な診療体制の縮小による収益面での落ち込みが見られたが、新病院開院後の高稼働に支えられて順調に医業収益を回復することができ、市からの運営費負担金を含む総収益は前年度に対して 20 億 1,100 万円増の 198 億 5,600 万円となった。

また、費用面では、医師、看護師など人員確保にともなう給与費の増加や患者増に比例して診療材料費が増加したほか、開院準備や旧病院の財産処分等による特別損失の計上などにより総費用は前年度に対して 30 億 8,900 万円増の 205 億 3,200 万円となった。

この結果、総収支においては 6 億 7,600 万円の赤字となったが、年度の収支計画に対しては大幅な改善となり、経常収支では収支計画を大きく上回る 6 億 2,900 万円の黒字決算となった。

(単位：百万円)

区分	H27 決算	H28 決算	H28 (計画)	増減 (28-27)	増減 (対計画)
総収益	17,845	19,856	17,940	2,011	1,916
営業収益	17,612	19,599	17,713	1,987	1,886
医業収益	16,486	17,676	15,805	1,190	1,871
入院収益	11,720	12,557	10,890	837	1,667
外来収益	4,331	4,595	4,314	264	281
その他医業収益	435	524	601	89	▲77
その他営業収益	1,126	1,923	1,908	797	15
営業外収益	233	213	226	▲20	▲13
臨時収益	0	44	0	44	44
総費用	17,443	20,532	20,379	3,089	153
営業費用	16,627	18,384	18,003	1,757	380
医業費用	16,163	17,837	17,579	1,674	257
給与費	8,764	9,307	9,188	543	119
材料費	3,929	4,456	3,834	527	622
経費	2,710	2,616	2,815	▲94	▲199
その他	760	1,458	1,743	698	▲285
一般管理費	464	547	424	83	123
営業外費用	816	798	860	▲18	▲62
臨時損失	0	1,350	1,515	1,350	▲165
総収支（当期純利益）	402	▲676	▲2,439	▲1,078	1,763
経常収支	402	629	▲924	227	1,553

* 計数は原則としてそれぞれの表示単位未満を四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

2 年度計画に係る実績（大項目別）

(1)住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

①市民病院として果たすべき役割の発揮

- 救急医療においては、救急受入件数の増加により年間目標を大きく上回った。

また、救急ワークステーションの設置やドクターカーの運行など新たな仕組みづくりに積極的に取り組んだ。

指標	目標値	実績	達成率（％）
救急車受入件数	5,700	6,125	107.5

- 災害発生時の医療体制として、南海トラフ大地震規模の自然災害を想定した業務継続計画を策定するとともに、加古川市と災害対応病院としての医療支援・協力体制の調整を図った。

- 中央市民病院において、人間ドックを開始し予防医療の提供体制を整備した。

指標	目標値	実績	達成率（％）
人間ドック受診者数(人)	2,400	1,790	74.6

- 各診療科に応じた地域の医療機関との連携を促進するため、個別訪問体制を強化し紹介及び逆紹介の安定的な確保を図った。

- 地域完結型医療の推進や地域包括ケアシステムの構築に対して、地域連携部門の充実を図り、地域連携会議やオープンカンファレンスなどをおして地域の診療所・病院や訪問看護ステーションや地域包括支援センター等の関係機関との「顔の見える関係づくり」に努めた。

指標	目標値	実績	達成率（％）
紹介率（％）	70.0	74.0	105.7
逆紹介率（％）	75.0	78.8	105.1

- 地域医療構想に基づき、高度急性期および急性期の機能を発揮すべく病床を配置し圏域内の医療機能分担を推進した。

指標	目標値	実績	達成率（％）
高度急性期機能病床数(床)	268	279	104.1
急性期機能病床数(床)	332	321	96.7

②高度・専門医療の提供及び医療水準の向上

- 5つの診療センターでは着実な成果を積み上げ高度専門医療を推進した。

[消化器センター]

- 内視鏡検査による消化器がんの早期発見・早期治療を推進した。

指標	目標値	実績	達成率（％）
上部内視鏡検査件数	6,000	7,312	121.9
下部内視鏡検査件数	3,750	3,674	98.0

[心臓血管センター]

- ハイブリッド手術室や最新機器を用いたカテーテルアブレーション治療などを駆使し、24時間365日の受入体制で循環器疾患及び血管疾患全般にわたる診断・治療を確保した。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
冠動脈インターベンション件数	380	393	103.4
アブレーション件数	160	212	132.5
デバイス治療件数	160	157	98.1
末梢血管インターベンション件数	180	169	93.9
開心術・大血管手術件数	100	119	119.0
心臓リハビリテーション単位数*	23,420	24,473	104.5

*個別・集団の合計件数で表示

[こどもセンター]

・地域小児医療センターとして、小児救急を含む2次医療機能を着実に担うとともに各診療科との連携により高度な小児専門医療に取り組んだ。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
小児救急搬送受入件数	1,700	1,816	106.8

[周産母子センター]

・産科部門と新生児部門が連携し、合併症を持つハイリスク妊娠に対する管理や新生児集中治療など高度な医療を提供し、地域周産期母子医療センターの役割を堅持した。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
分娩件数	830	862	103.9

[がん集学的治療センター]

・手術支援ロボットの活用や放射線治療、化学療法を組み合わせた治療体制とともに、緩和ケアやがん相談などによる患者支援機能の充実により、一貫した質の高い癌医療を提供した。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
PET-CT 件数	1,450	1,665	114.8
放射線治療件数	3,150	4,263	135.3
化学療法件数	3,300	3,982	120.7

・5疾病への対応では、兵庫県指定のがん診療連携拠点病院として、がん治療の均てん化を推進するとともに糖尿病治療や精神疾患に係る身体合併症を中心に取り組んだ。

・重症患者に対する手術や集中治療機能を発揮するとともに、MRI や CT などの高度な検査体制の充実を図った。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
手術件数	4,775	6,657	139.4
MRI 件数	13,500	14,831	109.9
CT 件数	36,000	37,994	105.5

・クリニカルパスの適用割合を向上させ、医療の質の標準化を推進した。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
クリニカルパス使用率 (%)	50.0	58.2	116.4

・医療スタッフのトレーニングや施設基準への適合を確保し、最新の高度医療機器を用いた高度医療を積極的に提供した。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
マグネティックナビゲーションシステム稼働件数	50	57	114.0

手術支援ロボット稼働件数	15	15	100.0
--------------	----	----	-------

③安全で信頼される医療の提供

- ・医療安全対策では、マニュアルの統一及び遵守を徹底し、研修等の機会を活用して職員の意識改革を推進した。
- ・外来待ち時間対策として、モニターや端末を増設し視覚的に確認しやすい環境を整備するとともに、携帯電話への自動呼出しシステムを導入した。
- ・受付スタッフや看護師を中心に定期的に接遇研修を実施し、延 532 人が受講した。
- ・外来部門や病棟の各所に「ご意見箱」を設置し、意見・要望等をサービスの改善に反映させた。
- ・広報誌「つつじ」の発行回数を増やし、新病院の診療機能や利用方法についての案内、周知を積極的に行った。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
患者満足度/入院 (%)	90.0	92.0	102.2
患者満足度/外来 (%)	80.0	80.8	101.0

④優れた医療従事者の確保及び育成

- ・医師 54 人、看護師 95 人を採用するなど医療従事者の確保を着実に行うとともに、専門資格や研修参加に対する教育支援制度を適切に運用し人材育成に努めた。
- ・教育支援センターの運営を本格化させ医療人としての資質向上に取り組んだ。
- ・初期臨床研修医の育成は、医師の人材確保において最重要課題との認識のもと、病院全体で魅力ある研修内容や支援体制づくりを進めた。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
医師数(人)*	150	163	108.7
初期臨床研修医数(人)*	18	27	150.0

*H29. 4. 1 の常勤医師数

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する事項

①自律性、機動性及び透明性の発揮

- ・理事会及び経営幹部による執行部会議の定期開催を通して、新病院開院後の課題解決に迅速に取り組んだ。
- ・理事や病院副院長、院長補佐の経営上の所管分野を定め、理事長及び病院長からの権限を適切に委譲し、経営の分任制を推進した。
- ・院内委員会の組織や人員の見直しを図り、効果的かつ効率的な運用体制を整備した。

②やりがいを持てる病院づくり

- ・職員の意向を病院運営に取り入れるため職員満足度アンケートを実施し、職種や世代、在職年数等による傾向を把握することで、重点課題の抽出を行った。
- ・試行中の人事評価制度の安定運用に向けて、人事評価者研修を継続的に実施した。

- ・長時間労働の削減に病院全体で取り組み、過重労働や健康障害の防止に努めた。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
職員満足度(%)*	71.4	49.1	68.0

(3) 財務内容の改善に関する事項

①経営機能の強化

- ・経営戦略施策を推進する担当副院長のもと、経営戦略会議を定期開催しDPC分析や診療報酬改定や地域医療の動向把握など情報収集機能を向上させた。
- ・病院幹部による経営企画会議や病院長ヒアリングによる目標管理を徹底し、年度計画の着実な達成に向けて指示、改善を強化した。
- ・各部門の管理職で構成する運営協議会において、月次の稼働状況や臨床指標の動向を報告することで全部門間の情報共有が図られ、職員の経営参加を促進した。
- ・平成28年度は、新病院のオープンなど特殊な要因も考慮し、経常収支の一時的な悪化を想定していたが、4期連続となる黒字決算となった。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
累積経常利益(百万円)	727	2,047	281.6
経常収支比率(%)	95.1	103.3	108.6
医業収支比率(%)	89.9	99.1	110.2

②収益の確保及び費用の節減

- ・医業収益の7割を占める入院収益では、効果的なベッドコントロールのもと年度下期の病床利用率が90%を越える高稼働となり、新規入院患者数の増加と相まって、年度計画の目標値を大きく上回る125億円台となり経営基盤の改善を図った。
- ・手術や高度医療機器による検査など効率性の高い診療内容が増加し、診療単価を向上させた。
- ・新病院への移転に際して、各種届出や施設基準の継承、適確な診療報酬請求に対応し、着実な収益確保を図った。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
入院診療単価(円/人・日)	65,000	67,986	104.6
外来診療単価(円/人・日)	13,000	14,547	111.9
1日あたり入院患者数(人)	459	506	110.2
1日あたり外来患者数(人)	1,360	1,305	96.0
病床利用率(%)	76.5	84.3	110.2
医業収益(百万円)	15,805	17,676	111.8
入院収益(百万円)	10,890	12,557	115.3
外来収益(百万円)	4,314	4,595	106.5

- ・診療材料や医薬品については、材料委員会等による購入品目の精査や在庫管理システムの導入、購買部門による徹底した価格交渉を実施し、費用の合理化を図った。
- ・旧東西市民病院から中央市民病院への統合に合わせて、施設維持管理や運營業務に係る委託事業の見直しを図り、効率化を進めた。

・給与費が適切に収益に反映するよう看護師や医療技術職員の計画的な採用を行い、給与費比率の増加を抑制した。

指標	目標値	実績	達成率 (%)
給与費比率/対医業収益 (%)	58.1	52.7	110.2
診療材料費比率 (%)	14.6	14.3	102.1
医薬品費比率 (%)	9.5	10.5	90.5
経費比率/対医業収益 (%)	18.0	14.8	121.6

(4) その他業務運営に関する重要事項

①新病院整備計画への着実な対応

- ・圏域の病院との連携・協力体制を構築し、救急受入れなど地域の医療機能に支障を与えることなく安全に新病院への移転を実現した。
- ・駐車場や周辺道路の渋滞など開院直後の諸課題について、スピード感をもって対応し業務運営の安定を図った。
- ・平成 24 年度に策定された新統合病院基本構想で示される整備方針に基づき、ハード及びソフトの両面で着実に計画を推進した。

②地域社会への貢献

- ・神戸大学の重点関連病院として医学部学生の個別実習を受入れ臨床教育機能を果たした。また、看護実習や多様な医療技術部門の実習生を受入れ、次代を担う地域の若い世代の人材育成に積極的に取り組んだ。

各部門の実習受入等の件数	延べ人数
診療部（神戸大学医学部生）	237
看護部	1,317
薬剤部	114
臨床検査室	105
放射線室	0
リハビリテーション室	97
臨床工学室	162
栄養管理室	270
口腔管理室	102
講師等派遣件数（看護部）	64

- ・地域医療構想や救急医療、新型インフルエンザ対策、地域包括ケアシステムづくりなどの施策に関する兵庫県や加古川市の設置する協議会や委員会に参画し、医療機関及び医療従事者としてまちづくりに貢献した。
- ・日本病院ボランティア協会に加盟し、ボランティアとの協働によってサービス向上を推進した。
- ・看護の日やクリスマスフェスタなどのイベントを開催し、地域住民との交流を促進した。

③加古川市の施策への協力

・地下水をエアコン室外機の冷却やトイレの排水など医療業務以外の領域で活用し、上下水道使用量、ガス・電力使用量の抑制・節減を実現し、環境負荷の低減に努めた。



加古川中央市民病院の施設概要

敷地面積：28,827 m²

建築面積：13,343 m²

病 院 棟：鉄筋コンクリート造（免震構造）11 階建

延床面積：49,062 m²

駐 車 場：540 台（来院者用）